

「妖火日」(ようかびー)

あらずじ

時は、20X0年。ミークス首相の下、独裁国家となったヤマタイは、民主化勢力を取り締まるため全国に特効警察を配置。特に以前から植民地状態であった島嶼部での取り締まりは、苛烈を極めた。それに対し、民主化勢力は、盲点となっていた老人ホームを拠点に活動を活発化、全国展開しついに一斉蜂起Xデーが近づいていた。しかし、その日を伝えるためのマスコミ、ネットや携帯など通信手段を押さえられてしまっているため、アナログな方法がとられた。特高の目をかいくぐりながら口伝えで広げていくことである。

時を前後して、全国の老人ホームで、うかみに会ったという老人が現れる。不思議なことにどの老人もぼけが治り、しかし、自分を別人だと思いこんでいた。すーやーぬぱーぱー、うんたまぎるー、アンダケーボージャーだというものまで。

それらの人たちが中心となり施設を訪ね歩く公演会などのやり方で、Xデーへの取り

組みが始まる。

中でも活躍したのが、歌三線の巧みな話術で老人施設を慰問して回るマコトである。警察の取調べ中、命を落としたマコトは、うかみによって別人（年をとり養護老人ホームの入居者となる）として、生き返る。

初日から、特別高等警察の取り調べに会うが、同志である介護士によって窮地を脱し、伝令の旅に出る。

政府機関への情報漏れを少なくするためメンバーは、島言葉を使うが、特高は、その対策として、同じ島人の湧川を取り込む。さらに方言禁止の法律ができる。

戒厳令がしかれる等様々な妨害や、危機を乗り越え、ついにXデーを迎える。20X1年の妖火日である。

はたして、思惑通り国民が一斉蜂起するのか。気をもむ民主化勢力の目の前で国民が次々と立ち上がり行動を起こしていく。